



釈尊降誕会を必ず 成功させる実践

少子化にも負けない全国六カ寺に学ぶ

花まつりに子供が集まらないという悩みを聞く。やめてしまう所も多いようだ。だが近年復活させたり、工夫で参詣者を増やしているお寺もある。その状況の秘訣とは。

白象パレードを復活し大盛況
静岡県・臨濟宗方広寺派正光寺

「昔は花まつりや白象の意味はみんな知っていたのに、いまの人は分からなくなっていました。これはまずいなあと危機感を感じて花まつりを復活しました」

静岡県浜松市にある臨濟宗方広寺派正光寺の松尾正澄住職（五十八歳）は話す。

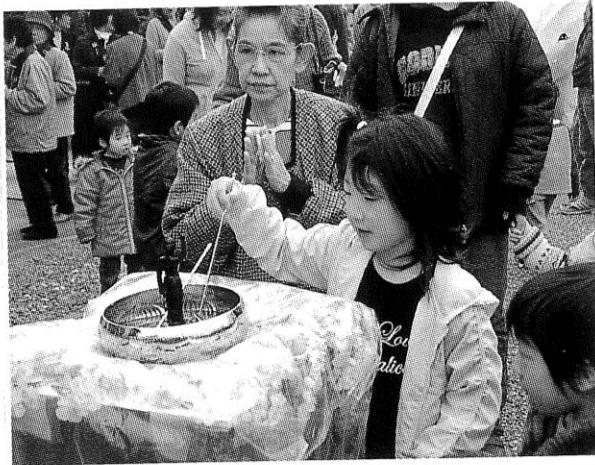
正光寺では昭和三十年代、先代の時代に白象を手作りし、花まつりに町内で白象パレードを始めた。当時の写真を見ると大勢の子供で、大賑わいなのが分かる。だが、いつしか途絶えてしまった。松尾住職は子供に花まつりが伝わらないことを危惧し、眠っていた白象を使って平成十九年に白象パレードを復活させた。開



途絶えていた白象パレードを復活した正光寺



子供たちに加え虚無僧や御詠歌隊も行列



3カ所の休憩所と最後はお寺で甘茶かけ

興味を持ち、途中からもうんといる。

仏だけに来る近所の人

ードに参加しなくても灌

ます」と松尾住職。パレ

毎年少しずつ工夫してい

をして景品を渡したり、

休憩所でスタンプラリー

れるという。「三カ所の

どを用意して協力してく

催は毎年四月の第一日曜日だ。

朝十時。誕生仏を背中に載せた白象が

お寺を出発。子供から大人まで数十人が

長いロープを引く。子供は普段着で気軽

に参加。お寺の周囲約四キロを二時間かけ

てゆつくりと一周する。行列には十数人

の御詠歌隊と数人の虚無僧も加わる。和

讃のお唱えと尺八の吹奏を交互にするの

が珍しく、人目を引く。

事前準備には警察から道路使用許可を

もらう。

コースは

交通量の少ない道を選ぶため通行止めには

はしないが、檀家が随所に交通係として

立ち、十分注意する。当日は役員を中心

に二十人が手伝う。約一カ月前に告知チ

ラシを作り、回覧板に入れたり、家々に

ポステイングしておく。

賑やかな行列につられて沿道には多くの

見物客が出てくる。世話人が一人一人

に紅白まんじゅうを手渡す。お寺が特注

したかわいらしい白象の焼き印付きで四

百人分を用意。小学生にも分かるような

易しいお釈迦様の言葉と花まつりの由来

を書いた小さい紙も同封してある。花ま

つりを知らない人にも意味を知ってもら

えるよいアイデアだ。《このおめでたい

紅白のおまんじゅうはお祝いのおすそ分

けです。人々が傷つけ合うことなく、互

いに尊重し合い、いのちのすばらしさを

喜び合えるほんとうの平和な世の中がお

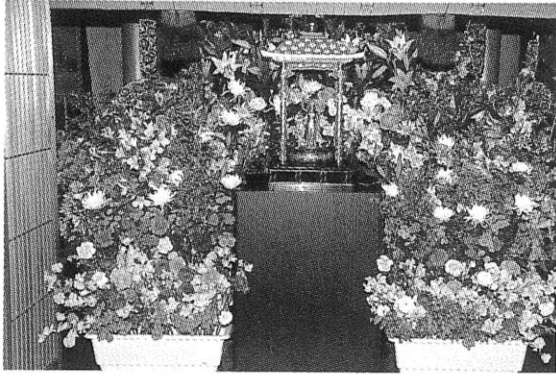
とずれますように心から祈りましょう》

とお寺のメッセージも記してある。

途中で三回、檀家宅の庭先を借りて休

憩。それぞれ誕生仏を安置して甘茶かけ

をする。檀家が自主的にお茶やお菓子な



季節の花々をたくさん集めて飾った花御堂



仏旗を先頭にパレードをする西福寺の門信徒

甘茶をかけて、みんなで般若心経を唱える。子供たちには念珠ブレスレット、お守り、あんパン、花の種など、袋いっぱいのご褒美の詰め合わせが待っている。「小さい子も『頑張った』と感じて

加わる人も多いので、お寺に着く頃には行列は百三十人ほどに増えてい

る。最後はお寺で誕生仏に甘茶をかけて、みんなで般若心経を唱える。子供たちには念珠ブレスレット、お守り、あんパン、花の種など、袋いっぱいのご褒美の詰め合わせが待っている。「小さい子も『頑張った』と感じて

加わる人も多いので、お寺に着く頃には行列は百三十人ほどに増えてい

赤ちゃんも参加する花まつり 大阪府・浄土真宗本願寺派西福寺

くれるのではないのでしょうか。心に何かが残ってくれたらいい。昔に比べて娯楽が増え、子供を集めるのは難しいですが、毎年継続することが大切。準備や費用の負担をなるべくかけないのが長く続けるコツではないでしょうか」(松尾住職)

白象パレードには赤ちゃんを抱いたり、ベビーカーを押すお母さんの姿がある。花まつりの日に初参式も同時に行い、さらにおめでたい日に行っているのは、大阪府茨木市の浄土真宗本願寺派西福寺だ。同寺はもともと子供の日曜学校や高中生が「るんびに太鼓」を結成し、若い世代が仏教に触れる機会を多く作ってきた。これまで花まつりは日曜学校の生徒を中心に内陣に飾った花御堂に甘茶をかける行事だったが、十年前に後を継いだ藤慶哉住職(四十三歳)は「もっとみんなが集える行事にしたい」と思案し、一昨年、思い切って町内を巡る白象パレードを始

めた。加えて、前年一年間に誕生した赤ちゃんの初参式も行うようにしたのだ。「今まで初参式はお申し出があるごとに別々にしていましたが、花まつりはお荘厳もきれいですし、まとめて賑やかにしたらどうかと考えました。それに昔は赤ちゃんが生まれるとおしゅうとめさんが抱っこして村を回り、お披露目する風習があつたのですが、新しい住人も増え、だんだん失われてきています。子供は地域全体で育てたい。この日の行列が地域へのお披露目になれば嬉しい」と話す。日には毎月第二日曜日に大人向けの「人生講座」を開いているので、その日に近い四月の土曜日に設定。初参式は前年に生まれた子に参加してもらうので、寺報で知らせたり、近隣で活動する子育て支援のグループなどにも声をかける。午後一時にお寺に集合して、白象パレードに出発。仏旗を掲げた子が先導し、子供たちが台車に乗せた白象を綱で引く。その後に総代や門徒、るんびに太鼓のお